

刑事資料  
平成31年

取扱注意

対話式質疑回答  
刑事訴訟法

警視庁刑事部

## 目次

対話式質疑回答  
刑事訴訟法

## 第1章 弁護人

## 第1 選任

- 〔事例1〕 任意捜査中の被疑者が選任した弁護人から弁護人選任届の提出を受けた場合等の措置……………1
- 〔事例2〕 逮捕取調べ中の被疑者が、知人を介して弁護人を選任したい旨を申し立てた場合の留意事項……………5

## 第2 接見交通

- 〔事例1〕 押し掛け弁護士の対処要領について……………9
- 〔事例2〕 「新入り」前に「弁護人となろうとする者」から接見の申出があった場合の措置……………12
- 〔事例3〕 捜査機関が、逮捕留置中の被疑者と弁護人等以外の者との接見を拒否することの可否……………16
- 〔事例4〕 同一人につき、被告事件の勾留と被疑事件の勾留が競合する場合、弁護人に対して「接見等の指定」をすることの可否……………20

## 第2章 告訴・告発・自首

- 〔事例1〕 器物損壊罪における告訴受理時の留意事項……………25

〔事例2〕 傷害罪の告訴状を受理して捜査した結果、過失傷害罪と認定した場合の当該告訴状の効力……………	28
〔事例3〕 インターネット上における名誉毀損罪の告訴期間……………	32
〔事例4〕 本犯の告訴期間経過後に共犯者がいることを知った場合、当該共犯者を告訴することの可否……………	36
〔事例5〕 相対的親告罪における告訴の主観的不可分……………	40
〔事例6〕 犯罪事実等が記載された匿名の「告発状」が郵送されてきた場合に、告発事件として処理することの要否……………	44
〔事例7〕 自己の犯行を電話で申告した場合の自首の成否……………	48
第3章 任意捜査	
〔事例1〕 被疑者が出したごみの領置方法……………	53
〔事例2〕 空き巣事件の被害現場を実況見分中に被疑者が遺留したドライバーを発見した場合の押収要領……………	57
〔事例3〕 被疑者宅の捜索で別事件の証拠品を発見した場合、立会人である内妻から任意提出を受けること可否……………	59
〔事例4〕 窃盗の被害品が拾得された場合の措置……………	63
〔事例5〕 住み込みで働いている従業員の部屋を雇主の承諾を得て実況見分することの可否……………	67
〔事例6〕 捜査関係事項照会書と身上調査照会書の意義……………	71
〔事例7〕 捜査関係事項照会書によって照会できる相手方の範囲……………	74
〔事例8〕 保全要請の意義……………	78

## 第4章 逮捕

## 第1 通常逮捕

〔事例1〕 不起訴処分となった事件について、同一事実で再逮捕することの可否……………	83
〔事例2〕 逮捕勾留中の被疑者につき、科刑上一罪を構成する別罪で逮捕することの可否……………	85
〔事例3〕 逮捕状請求後に被疑者が養子縁組を行ったため、逮捕状の執行時に旧姓となっている場合の逮捕状の効力……………	89
〔事例4〕 逮捕状の発付を受けて追跡中、氏名の変更が判明した場合の措置……………	94
〔事例5〕 逮捕状を提示する前に逃走した被疑者を追跡し、逮捕する場合の令状提示の時期……………	98
〔事例6〕 受刑者を通常逮捕する場合における逮捕の必要性の疎明要領……………	102
〔事例7〕 「逮捕状の緊急執行」の意義……………	105
〔事例8〕 逮捕状の緊急執行により逮捕した被疑者に対する逮捕状の提示時期……………	108
〔事例9〕 逮捕状の緊急執行後、被疑者に逮捕状の提示をするまでの間に当該逮捕状の有効期間が失効する場合の措置……………	111
〔事例10〕 いわゆる軽微犯罪の意義……………	115
〔事例11〕 令状の返還手続……………	119
第2 緊急逮捕	
〔事例1〕 緊急逮捕の要件等について……………	125

〔事例2〕 自首してきた被疑者を緊急逮捕することの可否……………	131
〔事例3〕 緊急逮捕対象事件と非対象事件を犯した被疑者を、 両罪で緊急逮捕することの可否……………	134
第3章 現行犯逮捕	
〔事例1〕 被害者の面通しのみで警察官が現行犯逮捕すること の可否……………	138
〔事例2〕 偽造運転免許証を身分証明書として提示し、他人名 義で携帯電話機の購入を申し込んだ者が、数時間後、 その受領に来た場合における現行犯逮捕の可否……………	143
〔事例3〕 犯行直後、逮捕を免れるために生じた被服の特徴を 「犯罪の顕著な証跡」として準現行犯逮捕することの 可否……………	146
〔事例4〕 入れ墨等の身体的特徴を「身体又は被服に犯罪の顕 著な証跡がある」と認めて準現行犯逮捕することの可 否……………	150
〔事例5〕 私人による現行犯逮捕において、逮捕者が当該逮捕 罪名を知らない場合や逮捕者の協力が得られない場合 の現行犯人逮捕手続書（乙）の作成要領……………	154
第5章 逮捕後の手続	
〔事例1〕 引致の意義……………	159
〔事例2〕 引致を行うことができる警察署の意義……………	163
〔事例3〕 被疑者を通常逮捕した後、引致前に被疑者を立会人 として令状による搜索・差押えを実施することの可否……………	167

〔事例4〕 弁解録取の機会における供述自由権の告知について……………	169
〔事例5〕 弁解録取の手続について……………	173
〔事例6〕 刑事訴訟法第203条1項の「…48時間以内に…送致 する手続をしなければならない。」の意義……………	178
〔事例7〕 勾留請求が却下された被疑者の身柄の措置……………	181
〔事例8〕 逮捕・勾留中の被疑者が、取調べを拒否して留置施 設内から出て来ない場合にとり得る措置……………	184
第6章 搜索・差押え	
第1節 令状請求手続	
〔事例1〕 集合住宅の居室と階が異なる郵便受けを同時に搜索 する場合における搜索差押許可状の請求通数……………	188
〔事例2〕 自動車自体を差し押さえるとともに、同車両内を搜 索する場合の搜索差押許可状の請求方法……………	189
〔事例3〕 公訴提起後の搜索差押許可状請求における留意事項……………	191
〔事例4〕 他府県下において出張捜査に従事中、搜索・差押え を実施すべき必要が生じた場合の搜索差押許可状の請 求手続……………	196
〔事例5〕 同一犯罪事実で同一場所を再搜索・差押えをするこ との可否……………	199
〔事例6〕 搜索差押許可状を有効期間満了日までに執行するこ とができなかった場合の再請求の適否……………	202
〔事例7〕 「犯罪事実」を明らかにすることで捜査上の支障が 生じる場合の搜索差押許可状の請求手続……………	206

〔事例8〕 令状の有効期間の計算方法	210
第2 捜索・差押え手続	
〔事例1〕 捜索・差押えに際し、捜索差押許可状を提示している状況を写真撮影する根拠	215
〔事例2〕 令状による捜索・差押えを実施中に配達された小包を、同令状で開封することの可否	220
〔事例3〕 会社事務所に対する捜索差押許可状により、立会人の身体を捜索し同人が所持する携帯電話機を差し押さえることの可否	224
〔事例4〕 捜索差押許可状に基づき被疑者宅を捜索するに当たり、被疑者が隣人宅に証拠物を投げ込んだ場合におけるその証拠物の押収方法	228
〔事例5〕 有料駐車場内に盗難手配がされた自動車が駐車されている場合の押収手続	232
〔事例6〕 他人が占有しているオートバイに取り付けられている盗難ナンバープレートの押収方法	236
〔事例7〕 コインロッカー内の在中品に対する押収手続	239
〔事例8〕 捜索・差押えを実施中の場所から退出しようとする者に対する措置	243
〔事例9〕 捜索・差押えの実施中、被疑者に電話を使用させることの可否	246
〔事例10〕 令状による捜索・差押えに着手したものの、別事件の証拠品を発見したため、これを押収するための新たな令状の発付を得るまでの間、捜索・差押えの実施を	

一時中止することの適否	251
〔事例11〕 強制採尿に当たって採尿場所へ強制的に連行する場合、令状上「連行することができる」旨の記載の要否	254
〔事例12〕 留置中の被疑者の所持品を差し押さえる場合の押収手続等	256
〔事例13〕 郵便局の私書箱に届いた郵便物の押収	260
〔事例14〕 被害者が死亡した場合の、医師が保管するカルテの押収と押収拒絶権	263
〔事例15〕 捜索証明書と押収品目録交付書の交付	266
第3 立会い	
〔事例1〕 逮捕留置中の被疑者が自宅の捜索・差押えにおける立会いを拒否した場合の措置	270
〔事例2〕 3階建ての会社内を同時に捜索する場合の立会人の数と捜索方法	273
〔事例3〕 深夜、逮捕現場である公道上において捜索・差押えを行う場合の立会人について	276
〔事例4〕 地方公共団体の職員を立会人として捜索・差押えを実施中に住居主たる被疑者が帰宅した場合の措置	278
〔事例5〕 未成年者を立会人として令状による捜索・差押えを実施することの可否	281
〔事例6〕 女性被疑者の捜索・差押え等における、女性警察官の立会いについて	284
〔事例7〕 地方公共団体の職員を立会人として捜索・差押えをする場合の実施要領	289

## 第4 夜間執行

- 〔事例1〕 日没後に会社事務所で捜索・差押えを実施する場合の夜間執行許可の可否……………292
- 〔事例2〕 自動車に対する捜索・差押えを実施する際の夜間執行許可の可否……………294
- 〔事例3〕 夜間に公道上で人の身体に対する捜索等を行う場合における夜間執行許可の可否……………298
- 〔事例4〕 夜間執行許可のない検証許可状で、夜間、公開中のホテルで宿泊客が利用している客室に対し、検証を実施することの可否……………302

## 第5 令状によらない捜索・差押え

- 〔事例1〕 令状によらない捜索・差押えの意義……………304
- 〔事例2〕 万引きで常人逮捕された被疑者の引渡しを受けた警察官が、引渡しを受けた現場で、令状によらない捜索・差押えをすることの可否……………306
- 〔事例3〕 被疑者が帰宅したところで、被疑者宅前の路上で逮捕した場合、令状なくして同宅を捜索することの可否……………309
- 〔事例4〕 逮捕状の執行に伴う被疑者の捜索と捜索証明書の交付の可否……………313

## 第7章 押収物の措置

## 第1 押収品目録交付書

- 〔事例1〕 押収品目録交付書の品名欄を包括して記載することの可否……………318

- 〔事例2〕 押収時に証拠品の処分を受ける者が所在不明である場合の押収品目録交付書の措置と、破産手続開始後の証拠品を押収した場合の同交付書の交付先……………321

## 第2 必要な処分・検証

- 〔事例1〕 遺留物として領置したバイクの収納部を開錠・捜索することの可否……………323
- 〔事例2〕 公道上に遺留された車両を領置した後、同車両内に置かれているバッグの中身を確認することの可否……………326
- 〔事例3〕 押収した携帯電話機の解析を行うに当たり、端末暗証番号が判明せず、初期設定に戻す場合の手続……………329
- 〔事例4〕 押収した車両に備え付けられたカーナビのデータを抽出するための手続……………332

## 第3 還付手続

- 〔事例1〕 盗品であるパソコンをリサイクルショップから任意提出を受けた場合における所有者……………336
- 〔事例2〕 押収している証拠品の還付手続……………340
- 〔事例3〕 犯罪の被害品である自動車を善意の取得を主張する第三者から押収した場合の還付先……………343
- 〔事例4〕 押収した被害品の一部に被疑者の所有物が取り付けられている場合の還付先……………346
- 〔事例5〕 被害現金が他の現金と混同している場合に、逮捕の現場における差押えとして差し押さえることができる現金の範囲と還付要領……………349
- 〔事例6〕 遠隔地に居住する被害者に対する証拠品の還付……………356

〔事例7〕 仮還付手続について……………	360
〔事例8〕 押取物還付公告の意義と要件……………	365
第8章 鑑定・身体検査	
第1 鑑定	
〔事例1〕 鑑定留置の意義と留意事項……………	370
〔事例2〕 差し押さえた注射器に付着した血痕ようのものを鑑定嘱託するに当たり、被処分者が鑑定に応じない場合の鑑定処分許可状の要否……………	381
〔事例3〕 差し押さえた遺書の一部を鑑定するために、切り取る場合における鑑定処分許可状の要否……………	385
〔事例4〕 押取したバイクのガソリンを必要な処分として鑑定することの可否……………	388
〔事例5〕 司法解剖を嘱託すべき鑑定人に変更が生じた場合の措置……………	392
〔事例6〕 DNA型鑑定資料採取のため身体検査令状の発付を得て強制採血を実施しようとしたところ、被疑者が渋々口腔内細胞の提出を申し出た場合の措置……………	396
〔事例7〕 強制採毛の実施要領……………	398
第2 身体検査	
〔事例1〕 指紋採取・写真撮影を拒否する逮捕被疑者に対する措置……………	405
〔事例2〕 任意捜査中の被疑者から強制的に指掌紋を採取する場合の手続……………	408

〔事例3〕 身体を拘束している男性被疑者の背中を露出させる場合における身体検査令状の要否……………	412
〔事例4〕 逮捕した被疑者のかつらを強制的に外して、被疑者写真を撮影することの可否……………	415
〔事例5〕 逮捕被疑者が履物底模様の採取を頑強に拒否した場合において、最小限度の有形力を行使して採取を行うことの可否……………	419
第9章 公訴の時効	
〔事例1〕 科刑上一罪の公訴時効……………	423
〔事例2〕 公訴時効成立の対象となる「人を死亡させた罪」の意義……………	428
〔事例3〕 幇助犯の公訴時効期間……………	429
〔事例4〕 公訴時効の停止の種類……………	433
〔事例5〕 被疑者の共犯者が国外に逃亡していた場合の、当該被疑者に対する公訴時効の進行停止の有無……………	436
〔事例6〕 被疑者が国外に出国していた期間につき公訴時効が停止する場合、「出国日」及び「入国日」は時効停止期間に含まれるか……………	439
第10章 その他	
〔事例1〕 保釈取消しの決定により被告人を収容する場合の手続……………	442
〔事例2〕 「判決」、「決定」、「命令」の意義と相違点……………	448

〔事例3〕 「略式命令」の意義	452
〔事例4〕 再審の意義	456
〔事例5〕 「自由刑とん刑者」の意義と取扱い時の措置について	461
〔事例6〕 実況見分調書の証拠能力と立会人の指示説明に関する記載上の留意事項	465
〔事例7〕 傷害事件の被害者が柔道整復師の「施術証明書」を診断書として提出した場合の措置	473
〔事例8〕 業務上過失傷害罪で刑が確定した後に被害者が死亡した場合の措置	477

## 請求対象外

請求対象外

対話式質疑回答  
実務(40) 刑事訴訟法

平成31年3月31日 印刷発行

東京都千代田区霞が関2-1-1

編集兼  
発行者 警視庁刑事部刑事総務課

電話 (03) 3581-4321

(内線 〇〇〇)

印刷所 〇〇〇

リサイクル選性(B)

この印刷物は、積極的に  
リサイクルされます。